

在外研修先での情報・通信活動

社会学部社会学科 西脇 二一

はじめに

平成9年4月から9月までの半年間、短期在外研修としてスペインのマドリッドに滞在した。その間、各種の連絡やデータの収集のために、インターネットをはじめとして各種の情報・通信メディアを利用した。海外での事例としてその概要を紹介し、インターネット時代の情報・通信活動についての感想を述べてみたい。

新聞

マドリッド市内の売店ではスペイン語以外に英語、フランス語、ドイツ語などヨーロッパ言語の新聞も手に入れることができる。しかし、スペイン語以外は日刊紙は少なく、日曜版しかおいていないことが多い。大きな店では、中国語、アラビア語、韓国語などの新聞もおいてあるが、日本語の新聞はおいてない。日本語の新聞は、大きなホテルで数回読ませてもらっただけである。

滞在中に新聞を読むことはほとんどなく、大きな事件（ペルーの日本大使館の解放、ETAによる誘拐した議員の殺害など）があった時に、大学のスタッフに教えてもらって、スペイン語の新聞の見出しや写真を見るくらいであった。従って、新聞を通して得た情報は極めて少なかった。

但し、後で述べるように、インターネット上の新聞はずいぶん利用させてもらった。

テレビ

私のアパートには衛星放送も見ることのできる共聴アンテナが設置されており、それらがUHFおよびVHFのチャンネルに割り当てられていた。家具付のアパートであるがテレビはついておらず、レンタルするか購入するかしなければならない。レンタルだと1ヶ月5000ペセタであるのに対して、電化製品の値段は日本より高めであっても、14型テレビであれば25000ペセタそこそこで購入できるので、購入することとした。4月に入居した時点では、スペイン語放送が7チャンネル（うち1チャンネルはメキシコからの衛星放送）、英語放送2チャンネル（BBCとCNN）、ドイツ語放送1チャンネル、アラビア語放送1チャンネル（モロッコからの衛星放送）、およびスペイン語中心で時々他国語も放送する

1チャンネル（ユーロスポーツ）の12チャンネルを視聴していたが、このうちのアラビア語放送は、6月に共聴アンテナが故障した時に、イタリア語放送に切り替えられてしまった。

テレビでは音声だけでなく画像や一部の文字も送られてくるので、音声だけのラジオよりは理解しやすい。英語のBBCやCNNは定時にニュースを流しており、同じニュースを何度か見れば内容の大筋は理解できるし、その他の言語でも画像から内容がある程度は推察できる。従って、滞在中における世界のニュースは大部分をテレビで入手した。ただ、日本のニュースが取り上げられることは極めて少なく、橋本首相の中国訪問、九州の台風被害、東京湾のタンカー事故など、数えるほどしかなかった。

滞在中、スペイン国内は静穏で、ニュースは概要さえ分かれば良く、テレビだけで充分だったが、やはり外国語だけでは細かな所までは理解できないことを思い知らされた。今回は、出発前に買いに行くことができず、結局そのままとなってしまったが、政情不安のある地域に滞在する際は、緊急時の情報入手用にラジオジャパンを聴くことのできる携帯ラジオは必須であろう。

インターネット

Universidad Complutense de Madridはスペインの国立大学の中で2番目に学生数の多い大学である。学内には計算機センターのほかにもいくつかのサーバーがあり、それらがLANで結ばれている。滞在中の私の身分は訪問教授（Visiting Professor）ということで、ネットワークを自由に使わせてもらうことができた。

ただし、パソコンが日本国内に比べて高価なため、岩石学地球化学教室には共同利用のパソコンしかなく、個人研究室で利用するためにはパソコンを用意する必要があった。また、現地にはスペイン語および英語対応のものしかなく、日本からの電子メール等を扱うためには日本語対応のパソコンを日本から持参しなければならなかった。さらに、日本語対応のものでスペイン語やフランス語などのホームページをアクセスすると文字化けしてしまうことが分かった。結局、英語Windows'95をインストールしたものと、日本語Windows'95をインストールしものの2台を用意することとなった。また、日本への書類提出用に日本語対応のプリンターも用意することとなった。

日本国内で海外仕様の機器を用意することは以外と面倒であった。はじめは現地の電圧（220V）に合うものであれば良いと思っていたが、部品毎の仕様としては対応していても製品全体では対応していなかったり、仕樣的には対応していても海外使用は保証できないとされていることがあって、製品の選択の余地がかなり制限された。電圧の200Vと220Vの差が障害となって、機器が使用不能となることさえあった。

LANへの接続については、ハード的には全く問題なかったが、IPアドレス、DNS、

ゲートウェイなどの設定にあたって、必要な情報がなかなか手に入らず、四苦八苦しした。これらの情報は大学のスタッフの中でも特定の人しか理解しておらず、それ以外の人に聞くと全く要領を得ず、時間ばかりかかってしまうという状態はどこでも共通のようである。

ネットワークに接続できてからはかなりスムーズに仕事ができるようになった。日本語対応の機械で日本との電子メールおよび日本語のデータの転送等を行い、英語対応の機械で英語のデータの変換と転送および国際データベースへのアクセスなどを行った

マドリッドのサーバーによる電子メールの送受信は特に問題はなかった。ただ、夏休み中にPOPサーバーがダウンし、担当職員が休暇でいないため、1週間以上にわたって回復しなかった時は困った。英語の電子メールの方はPOPサーバーを使わないで読むことができるが、その方式では日本語が化けてしまう。その間の日本語の電子メールについては、やむを得ず奈良大学のサーバー経由で送受信する羽目となった。

しかし、奈良大学のサーバー (daibutsu.nara-u.ac.jp) に入っている電子メールを読もうとしても、平日の昼間はスペインからの出口が混んでおり、ほとんど不可能であった。時間をずらせばと考えたが、時差の関係で、スペインの早朝は日本のビジネスアワーに当たり、夜はアメリカのビジネスアワーに当たるため、大学にいることのできる夜9時まで頑張っても読めないことが多かった。結局、大学の建物および教室に出入りするための鍵の交付を受けて、土曜日か日曜日に読むしかなかった。在外研修中は現地の電子メールアドレスを使うことを連絡しておいたことと、奈良大学内の事務連絡用メーリングリストからアドレスを外してもらったことで、奈良大学のサーバーには余り多くの電子メールが入らなかったのも、毎週一回だけのメールチェックで何とかだった。

英語の電子メールは、相手のサーバーによっては添付ファイルが認識できないことが時々あったことを除けば、特に問題なかった。しかし、フランス語のアクサンのような特殊記号の混じったメールを受けると文字化けすることには悩ませられた。このようなメールは、言語設定をヨーロッパ言語としておいても、日本語Windowsの方で受ければかなりの確率で文字化けする。一方、英語Windowsの方で受ければ文字化けはほとんどないが、そのかわり同時に入ってきた日本語のメールが読めなくなってしまう。文字化けがひどくてどうにもならない時は、やむを得ず、発信者にもう一度送ってもらって英語Windowsの方で受け直すことにしていたが、そういう時に限って日本語のメールも入っていて、そちらが化けてしまうということも多かった。

日本語の電子メールについては、2月の事前打ち合わせの際はLAN-PCカードの規格があわなかったため、日本語は添付ファイルでしか送れないという状況であったが、LAN-PCカードを取り替えた4月以降は、日本語Windowsの方で送受信すれば問題なかった。ただ、送信先の機種とOSの関係で、スペインからメール本文で送った日本語は読めず、日本語のメッセージは添付ファイルにしなければならないことがあった。奈良大学と

の事務連絡でも、メール本文には英語またはローマ字で用件の概要を記入し、日本語メッセージそのものはの添付ファイルを送ることが何度かあった。

日本語の電子メールができるようになったので、研究面および事務面の日本との連絡は全て電子メールで行うことができた。留守宅にも日本語Windowsのパソコンを置き、プロバイダーとも契約をしておいたので、家族との連絡も全て電子メールで行うこととなった。時差の関係で、朝8時に大学へ行っても、日本ではすでに午後3時になっているので、すぐにメールを読んで返信しないと、その日のビジネスアワー中に届かないので、結構気忙しい毎日であった。ちなみに、マドリッドは経度的にはロンドンよりも西にあるにも拘わらず、ヨーロッパ標準時間を採用しており、さらに、夏時間も採用されているため、日本での感覚とは2時間ほどずれており、真夏でも日の出は朝8時過ぎである。

ヨーロッパおよびアメリカのホームページへのアクセスは、ビジネスアワーには多少遅くなるが、それでも日本からのアクセスよりはずいぶん早く、相当大きなデータでもダウンロードすることができた。ナビゲーションの手続きそのものは日本国内からと変わらないが、スピードが速いため、迅速に作業を進めることができた。

日本のホームページへのアクセスは、平日の昼間はかなり遅くなり、とても仕事にならないことが多かったが、夕方7時を過ぎるとかなりスムーズになる。画像が多く含まれている大きなページは読むことができないことがあり、その場合は、電子メールと同様、週末にアクセスするしかなかった。

FTPなどでのデータ転送に当たっては、圧縮ファイルにしてファイルサイズを小さくするのが常識であるが、圧縮形式および解凍プログラムのバージョンの違いなどで、せっかく送受信したファイルが開けないということがあった。異なった形式の圧縮ファイルを送受信することで解決できることが多かったが、どうしても駄目な場合は、圧縮していない大きなサイズのファイルを、週末に時間をかけて送受信しなければならないことも多かった。

インターネットは、研究だけでなく、ニュースの入手にも利用させてもらった。国際的な通信社のホームページで毎日のニュースを読むことができるので、テレビを補うものとして利用した。ダイアナ妃の事故死や、火星探査機の観測結果など、滞在中に起きた大きな事件については、主としてCNNのホームページ (www.cnn.com) で詳細を知ることができ、記事の中の写真も新聞に印刷されたものより精度の良いものをダウンロードすることができた。

また、日本の新聞社のホームページで、現地のテレビではほとんど報道されない日本のニュースを入手できた。いくつかの新聞社のホームページをアクセスしたが、以外と早いミラーサイトのあった朝日新聞 (www.asahi.com) を主に見ていた。こちらは英語Windowsの方では、画像として送られてくる写真や見出しなどは別として、全て化けてし

まって読めないのです、日本語Windowsが必須である。昼間は、研究で忙しいだけでなく、ネットワークが混んでいることもあって、日本のニュースは夕方7時過ぎに読んでいた。日本では深夜2時に当たるので、その日の最終版というよりは翌朝の初版の内容を読んでいたことになる。このお陰で、現地のテレビではほとんど報道されなかった神戸の中学生の殺人事件のようなローカルなニュースについて、日本から離れていても詳しく知ることができた。新聞社のホームページは頻繁に更新されており、ニュース速報のページもあるので、日本との時間差なくニュースを知ることができるようになっている。

ファックス

出発前には、日本との時差や単身赴任であることも考えて、ファックスをアパートにつけるつもりでいた。しかし、現地で日本語も含めて電子メールがスムーズに行えるようになったことと、電子メールアドレスを持つ研究者が多くなってきたことから、ファックスは補助的にしか使わないことになり、大学のファックスを利用させてもらうこととした。幸い、ファックスのある部屋の鍵も交付してもらうことができ、休日や夜間でも利用できた。もっとも、従来ファックスで送っていた書類の多くがスキャナー入力して電子メールで送ることが多かったので、滞在中に実際に使用したのは、電子メールアドレスを持たないかまたは電子メールアドレスが分からない人との連絡と、送られてきた書類にサインをして送らねばならないような場合だけであった。電子メールの普及で、ファックスの比重が小さくなってきたことを改めて知らされた。

電話

大学の研究室の電話はダイヤルインであったが、隣室と共同となっていた。隣室は退官教授室のためそれほど多くはかかってこないが、スペイン語でかかってくるので苦労した。英語で対応して分かってもらえる場合はいいのだが、英語が全く通じない場合も多かった。アパートには電話端子はあるが、電話機は取り外してあり、新たに電話局と契約をしなければいけない状態であった。電話機はアパートの所有者が預かっているということであったが、契約に行ってみると、その電話機は旧式のため、新しいものと交換しなければならないということであった。非居住者ということで、契約金の他に保証金（30000ペセタ）も必要であったが、これは帰国後に現地の銀行口座に振り込んで返還された。ちなみに、この銀行口座は帰国後3ヶ月間残しておいて、未払い分の支払いやいくつかの払戻金を受け取ってから、残額を日本の口座に送金してもらった。電話回線の基本料金、通話料等は日本とほぼ同じである。

日本への連絡も電子メールで済ませたこともあり、これらの電話は共同研究者への連絡にしか使わなかった。まとめて使ったのは、アパートの水道が深夜に水漏れを起こして修理屋を探した時だけである。結局、半年間の通話料は1000ペセタほどしかなかったが、これは、大きな事故などがなかったおかげである。電話は主に緊急連絡用に引いたものであり、保険と同じで、使わずに済んだことを喜ぶべき所であるが、あまりにも通話料が少なかったため、基本料や契約料を無駄にしたような気分である。

電話は、直接相手と会話できるという特徴があり、また、緊急時には最初に使われるものでもある。電話の役割そのものがなくなることはないが、通信手段の中での比重がずいぶん下がってきていることを改めて知らされた。

郵便

スペインの郵便事情は日本と変わらない。配達も結構スムーズで、料金も日本とほとんど同じである。ただ、料金区分が日本ほど細かくないので、区分を少し越えただけのものだと割高感がある。日本との間ではEMSのサービスも利用でき、急ぎの書類も3～4日で届くので安心である。

郵便は大学でもアパートでも受け取ることができたが、書留や大型郵便物は配達されず、到着案内票が送られてくる。大学宛の大抵のものは事務職員が受け取りに行ってくれるが、アパートの方は全て自分で800mほど離れたところにある郵便局まで受け取りに行かねばならない。郵便を出す場合も、大学では個人的なもの以外は、事務室へ持っていけば切手も貼ってポストへ入れて出してくれるが、個人用や帰国時の小包などは自分で郵便局まで持っていかねばならない。

今回の滞在のために新たに購入したパソコンのマニュアルは郵送したが、それ以外にはほとんど郵便は使っていない。研究用の資料やデータの大部分はCDやフロッピーに入れて持参したし、文献は現地にあるので持ってくる必要はなかった。滞在中に日本に送る書類も、スキャナーで入力して電子メールで送ってもらうことが多かったので、郵便で送るのは、サインや印鑑が必要なものだけであった。ここにもインターネットの影響があることを知らされた。

おわりに

これまで述べてきたように、今回の在外研修における情報・通信活動の多くの面でインターネットを利用することとなった。従来、新聞やテレビが担当していた報道の分野でも、電話、ファックスおよび郵便が担当していた通信の分野でも、それらの一部をインター

ネットが担当するようになってきている。勿論、インターネット以外のメディアも利用したが、それらの利用の範囲や利用法が従来より限定されてきており、インターネットの影響の大きさを改めて感じさせられた。

在外研修を計画した時点で、国際データベースをインターネット環境に適合するものに改良することを研究テーマとしていたので、研究面でインターネットを利用することが多いことは当然と思っていた。しかし、研究以外の生活面でもこれほどインターネットを使うことになるとは思ってもいなかった。ここ数年間の情報を取り巻く環境変化のめざましさに改めて驚いている。

最後に、在外研修中、各種のメディアの利用を許可していただいたUniversidad Complutense de Madridとその職員各位、並びに、インターネットの利用に関し色々ご教示いただいた奈良大学情報処理センターの職員各位に厚く御礼申し上げます。